

8 ▶ 地域卓越研究者戦略的結集プログラム (平成21年度開始、平成25年度終了予定)

概要

地域卓越研究者戦略的結集プログラムは、地域の大学（以下、中核大学）において卓越した研究を実施している研究者（以下、在籍卓越研究者）を中核とし、企業化に向けて当該分野の研究を高度化・加速化できる同様・関連分野の複数の卓越研究者を中核大学に招聘・チーム化（以下、このチームを「ドリームチーム」という）し、研究開発を加速するとともに、産学官連携によって企業化に導くことにより、地域におけるイノベーションの創出、活性化を目指すプログラムである。

本プログラムは、プロジェクト終了5年後に在籍卓越研究者の研究開発成果の企業化が見込めるテーマを対象とし、卓越研究者の招聘・ドリームチームの構築、産学官連携による企業化の推進に当たっては中核大学、自治体が密接に連携してプロジェクトを推進することとした。これらを踏まえ、応募テーマの選考は、プログラム・オフィサーを任命し、JST本部にて公募により行った。

中核大学はプロジェクト全体に関し、自治体は特に企業化に関して、主導的に取り組むとともに大学等と連携して、市場調査、研究成果の企業とのマッチング、知的財産の保護・育成・活用等を行う企業化推進体制を整備する。さらに中核大学は理事クラスの者をプロジェクト責任者として置き、卓越研究者の招聘、ドリームチームに対する研究開発環境の整備、参画機関との調整、企業化等、プロジェクト全体を統括している。

また、JSTはドリームチームが創出する技術シーズが企業化推進体制により適切に企業化に導かれるよう助言を実施するとともに、ドリームチームの研究

開発・企業化状況を定期的に確認し、プロジェクトの推進に当たるプロジェクトマネージャーを委嘱している。さらに研究開発の実施地域を所管するプラザ・サテライトの館長等は、企業化推進会議等へ参加し、企業化へ向けた戦略的助言等を行っている。

JSTが負担する経費は1プロジェクト当たり年間最大2.2億円であり、5年間の支援を行う。経費は卓越研究者の招聘に係る人件費を中心に、中核大学等の計画に基づき支出しているのが特徴である。

本プログラムは、平成21年度に創設し、同年2テーマを採択し、これをもって新規募集を終了している。現在卓越研究者の招聘を行った後、研究開発の推進を進めている。

信州大学・長野県

「エキゾチック・ナノカーボンの創成と応用」

(代表研究者：信州大学 遠藤 守信 カーボン科学研究所長・教授)

山形大学・山形県

「先端有機エレクトロニクス国際研究拠点」

(代表研究者：山形大学 城戸 淳二 教授)

地域イノベーションを創出するために、卓越した研究者の集積とそこでの優れた研究開発に焦点を当て企業化を図ることを狙ったユニークなプログラムである。

